

# Azure サブスクリプションと管理グループ

100 XP

6 分

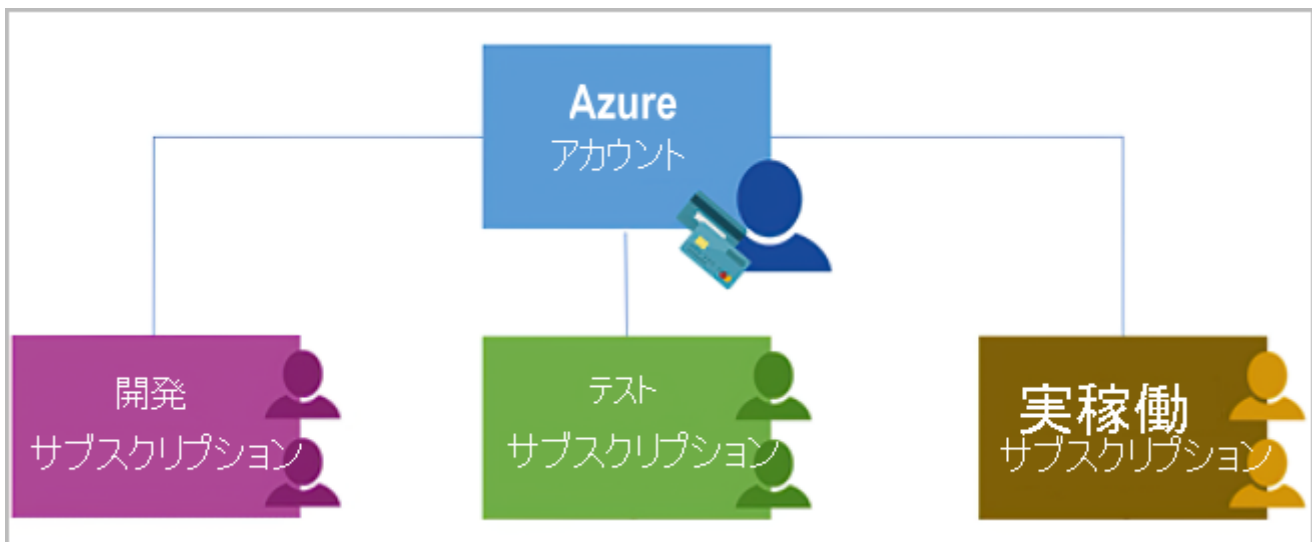
Tailwind Traders が Azure の使用を開始する場合、最初の手順の 1 つは、少なくとも 1 つの Azure サブスクリプションを作成することです。これを使用して、Azure でクラウドベースのリソースを作成します。

## 注意

Azure リソースは、Azure を通じて使用できる管理可能な項目です。仮想マシン (VM)、ストレージアカウント、Web アプリ、データベース、仮想ネットワークはすべて、リソースの例です。

## Azure サブスクリプション

Azure の使用には、Azure のサブスクリプションが必要です。サブスクリプションにより、Azure の製品とサービスへのアクセスが認証および承認されます。また、これにより、リソースをプロビジョニングすることもできます。Azure サブスクリプションは、Azure アカウントにリンクされている Azure サービスの論理ユニットであり、Azure Active Directory (Azure AD) 内または Azure AD によって信頼されるディレクトリ内の ID です。



1 つのアカウントに、1 つのサブスクリプション、または課金モデルが異なり、異なるアクセス管理ポリシーが適用される複数のサブスクリプションを設定することができます。Azure サブスクリプションを使用して、Azure 製品、サービス、リソースに関する境界を定義できます。使用できるサブスクリプションの境界には、次の 2 種類があります。

- **課金の境界:** このサブスクリプションの種類では、Azure の使用料金を Azure アカウントに課金する方法を決定します。さまざまな種類の課金要件に応じて複数のサブスクリプションを作成できます。Azure により、サブスクリプションごとに個別の課金レポートと請求書が生成されるため、コストを整理して管理することができます。

- **アクセス制御の境界:** Azure では、アクセス管理ポリシーをサブスクリプション レベルで適用するので、さまざまな組織構造を反映する個別のサブスクリプションを作成できます。たとえば、ある企業には、さまざまな部門があり、それらに個別の Azure サブスクリプションポリシーを適用するとします。この課金モデルを使用すると、ユーザーが特定のサブスクリプションを使用してプロビジョニングするリソースへのアクセスを管理および制御できます。

## 追加の Azure サブスクリプションを作成する

リソースまたは課金管理の目的で、追加のサブスクリプションを作成することができます。たとえば、以下のものを分離するために、追加のサブスクリプションを作成することを選択できます。

- **環境:** リソースを管理するときに、サブスクリプションを作成して、開発とテスト、セキュリティ、またはコンプライアンス上の理由でデータを分離するために個別の環境を設定することを選択できます。リソース アクセス制御はサブスクリプション レベルで発生するため、この設計は特に有用です。
- **組織構造:** さまざまな組織構造を反映させるために、サブスクリプションを作成できます。たとえば、あるチームは低コストのリソースに制限し、IT 部門にはすべてを許可することができます。この設計では、ユーザーが各サブスクリプション内でプロビジョニングするリソースへのアクセスを管理および制御することができます。
- **課金:** 課金目的で追加のサブスクリプションを作成することもできます。コストは最初にサブスクリプション レベルで集約されるため、サブスクリプションを作成して、必要に応じてコストを管理および追跡することができます。たとえば、運用ワークロード用として1つのサブスクリプションを作成し、開発およびテスト ワークロード用として別のサブスクリプションを作成することができます。

次の理由により、追加のサブスクリプションが必要になる場合もあります。

- **サブスクリプションの制限:** サブスクリプションにはいくつかのハード制限があります。たとえば、サブスクリプションごとの Azure ExpressRoute 回線の最大数は 10 です。これらの制限は、ご自分のアカウントにサブスクリプションを作成するときに考慮する必要があります。特定のシナリオでこれらの制限を超える必要がある場合は、追加のサブスクリプションが必要になることがあります。

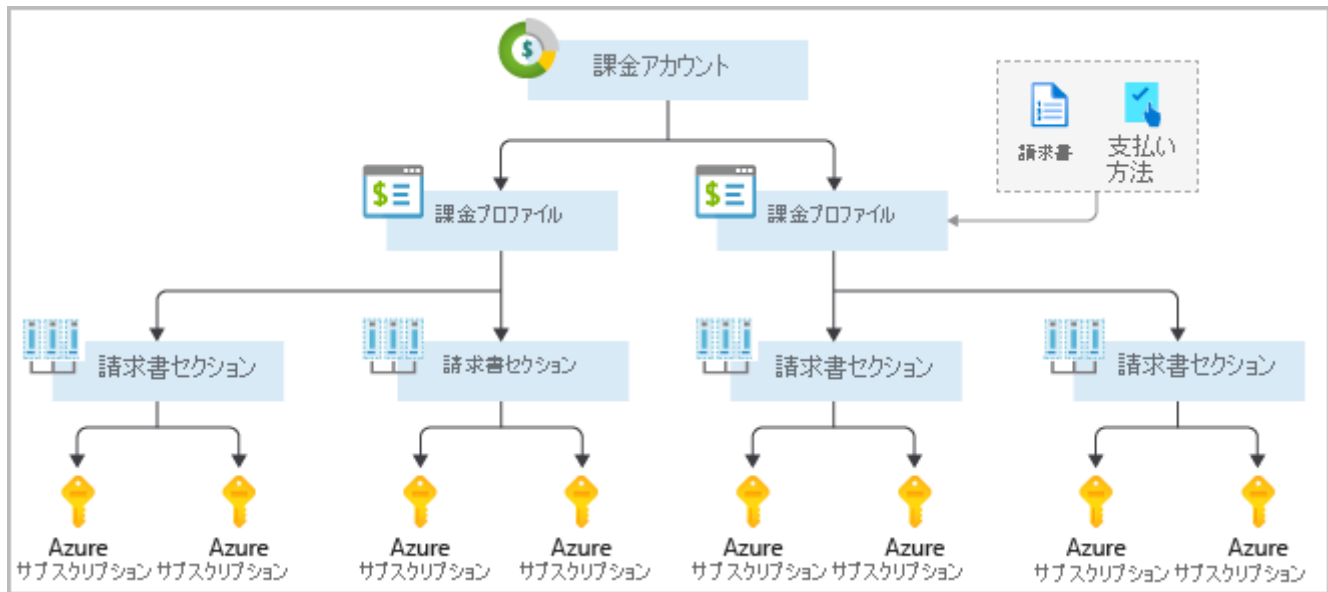
## ニーズに合わせて課金をカスタマイズする

複数のサブスクリプションがある場合は、それらを請求書セクションにまとめることができます。各請求書セクションは、その月に発生した料金を示す請求書の品目です。たとえば、組織に対して1つの請求書が必要であるものの、部門、チーム、またはプロジェクト別に課金を整理する必要がある場合があります。

ニーズに応じて、同じ課金アカウント内に複数の請求書を設定できます。これを行うには、追加の請求プロファイルを作成します。各請求プロファイルには、独自の月次請求書と支払方法があ

ります。

次の図は、請求がどのように構造化されているかの概要を示しています。以前に Azure にサインアップしたことがある場合、または組織が Enterprise Agreement を締結している場合は、課金が異なる方法で設定される可能性があります。



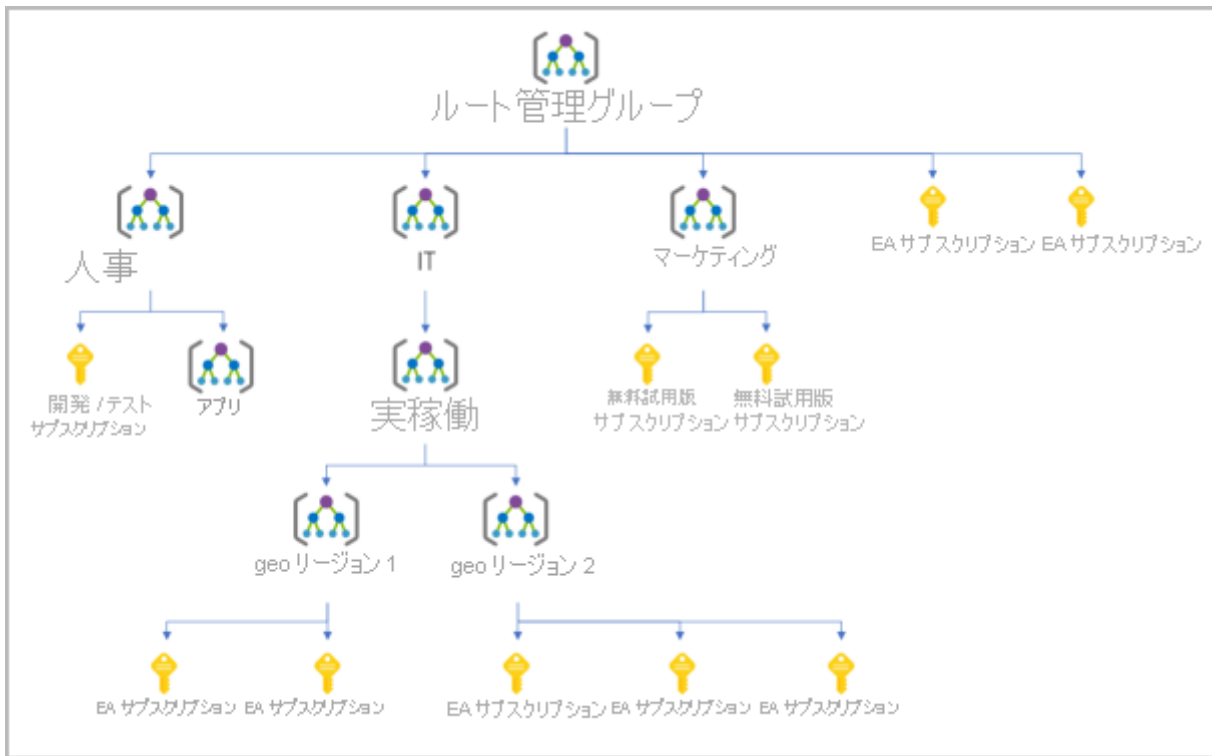
## Azure 管理グループ

組織に多数のサブスクリプションがある場合は、それらのサブスクリプションのアクセス、ポリシー、コンプライアンスを効率的に管理する方法が必要になることがあります。Azure 管理グループでは、サブスクリプションより上のレベルのスコープが提供されます。管理グループと呼ばれるコンテナにサブスクリプションを整理して、管理グループに管理条件を適用できます。管理グループ内のすべてのサブスクリプションは、管理グループに適用された条件を自動的に継承します。管理グループを使うと、サブスクリプションの種類に関係なく、大きな規模でエンタープライズレベルの管理を行うことができます。1つの管理グループ内のすべてのサブスクリプションでは、同じ Azure AD テナントを信頼する必要があります。

たとえば、VM の作成に使用できるリージョンを制限するポリシーを管理グループに適用できます。そのリージョンでの VM の作成を許可するだけで、その管理グループの下にあるすべての管理グループ、サブスクリプション、リソースに、このポリシーが適用されます。

## 管理グループとサブスクリプションの階層

管理グループとサブスクリプションの柔軟な構造を作成し、リソースを階層に整理して、統一されたポリシーとアクセス管理を適用できます。次の図は、管理グループを使用して管理のための階層を作成する例を示しています。



ポリシーを適用する階層を作成できます。たとえば、運用という名前のグループ内の VM の場所を米国西部リージョンに制限できます。このポリシーは、その管理グループの子孫であるすべての Enterprise Agreement サブスクリプションに継承され、それらのサブスクリプションの下にあるすべての VM に適用されます。このセキュリティ ポリシーをソースまたはサブスクリプションの所有者が変更することはできません。これにより、ガバナンスが向上します。

管理グループを使用する別のシナリオでは、ユーザーに複数のサブスクリプションへのアクセスを提供します。その管理グループの下に複数のサブスクリプションを移動することで、管理グループに対するロールベースのアクセス制御 (RBAC) 割り当てを 1 つ作成できます。これにより、すべてのサブスクリプションにそのアクセスが継承されます。さまざまなサブスクリプションに RBAC を割り当てるスクリプトを作成しなくても、管理グループへ 1 つ割り当てることで、ユーザーは必要なものすべてにアクセスできます。

## 管理グループに関する重要な事実

- 1 つのディレクトリでは、10,000 個の管理グループをサポートできます。
- 管理グループのツリーは、最大 6 レベルの深さをサポートできます。この制限には、ルートレベルまたはサブスクリプションレベルは含まれません。
- 各管理グループとサブスクリプションでは、1 つの親のみをサポートできます。
- 各管理グループには、多数の子を含めることができます。
- すべてのサブスクリプションと管理グループは、各ディレクトリの 1 つの階層内に存在します。